

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

#### 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

#### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

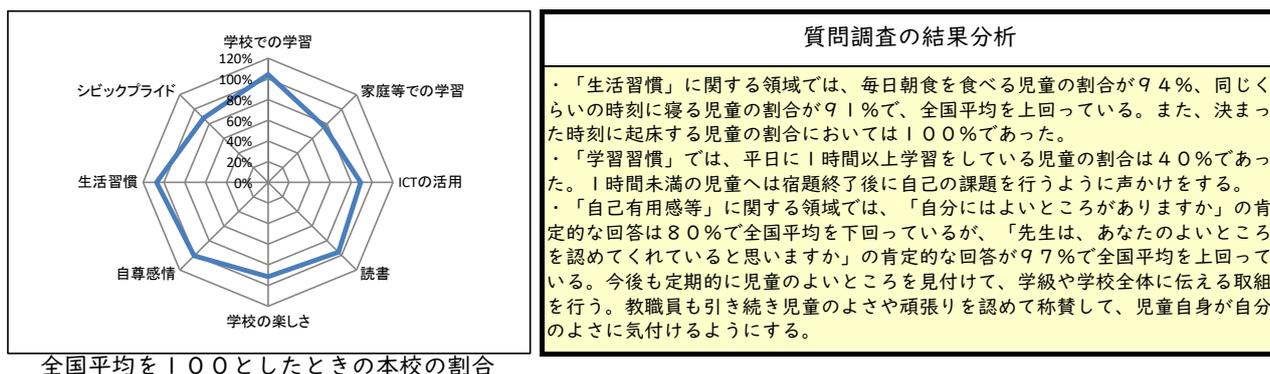
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字を文の中で正しく使う問題が全国平均を上回っている。「我が国の言語文化に関する事項」の時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・「話す・聞く」領域：自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題 ・「読む」領域：目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題	
	努力が必要な問題	・情報同士の関係付けの仕方や図等による語句と語句との関係の表し方を理解し活用する力をみる問題 ・「話す・聞く」領域：話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力をみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	「測定」領域の知識・技能をみる問題は全国平均と同程度であり、面積の求め方を式や言葉で表す問題は全国平均を上回っている。「データの活用」領域、「変化と関係」領域の思考・判断・表現をみる問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・「図形」領域：台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題 ・「式と計算」領域：異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・「変化と関係」領域：「10%増量」の意味を解釈し、増量後の量が増量前の量の何倍かを表す問題 ・「数と計算」領域：棒グラフから項目間の関係を読み取る問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「生命」を柱とする領域の花のつくりや受粉についての知識をみる問題は全国平均を上回っている。「エネルギー」を柱とする領域の知識・技能をみる問題、「地球」を柱とする領域の思考・判断・表現をみる問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・「生命」領域：ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題 ・「地球」領域：水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ問題	
	努力が必要な問題	・「粒子」「地球」領域：温度による水の状態変化と関連付けて、結露についての適切な説明を選ぶ問題 ・「生命」領域：顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・自分の考えをもてるために、児童が見通しがもてるモデルを提示し、意見交流の回数を増やす。
- ・算数科では、「データの活用」の問題、「変化と関係」の思考・判断・表現をみる問題に取り組む。
- ・理科では、顕微鏡の操作の仕方、電気や磁石の性質、土の粒と水のしみ込み方の関係の理解の定着を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・規則的で健康的な毎日を過ごせるように、早寝早起き朝ご飯の実践を学年通信等で周知する。
- ・小中連携では、学年ごとに家庭学習の内容や学習時間についての見直しを行い、計画的に取り組む。また、宿題プリントの解説や誤答のやり直しをする時間を朝自習の時間に位置付けて学力の定着を図る。